

武蔵国分寺跡資料館だより

Musashi Kokubunji Temple Remains Museum Newsletter

編集・発行・印刷

見る / 学ぶ / 訪ねる /

武蔵国分寺跡資料館

Musashi Kokubunji Temple Remains Museum

【住所】 〒185-0023 東京都国分寺市西元町1-13-10
 【電話】 042-323-4103 【FAX】 042-300-0091
 【E-mail】 museum@city.kokubunji.tokyo.jp
 【HPアドレス】
<http://www.city.kokubunji.tokyo.jp/shisetsu/1733/009819.html>

2013.1
第13号



平成 21 年 10 月 18 日にオープンした国分寺市立歴史公園 おたかの道湧水園 (武蔵国分寺跡資料館) への入園 (入館) 者が、平成 24 年 11 月 10 日 (土曜日) 午後 2 時頃に通算 5 万人に達しました。

5 万人目の方は、国立市在住の H 様ご夫妻で、記念品として国分寺市教育委員会から文化財図書や史跡の駅「おたカフェ」からコーヒー券などが贈呈されました。



おたかの道湧水園入り口の長屋門前にて

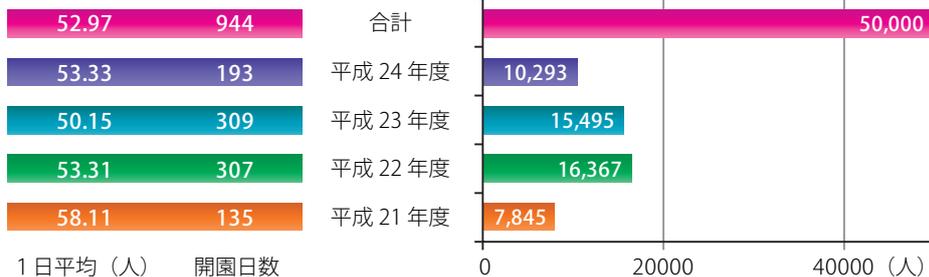
H 様ご夫妻は、何度か武蔵国分寺跡やその周辺を散策されていたようですが、おたかの道湧水園には当日初めて入園されたそうです。5 万人目になったことに「私が!？」と、とても驚かれていました。

お答えいただいたインタビューでは「この辺りは自然がいっぱい残っていて、いいところですね。何度でも来たいです」とおっしゃっていました。

また、入園者 5 万人達成を記念して、50,001 から 50,100 人目の方に、アニメ制作会社「竜の子プロダクション」とともに市が平成 24 年に制作した国分寺市のイメージキャラクター「ぶんじほたるホッチ」をデザインしたボールペンを配布しました。

市では、今後とも多くの入園者が訪れる場所になるように、歴史公園や歴史的建造物の整備、武蔵国分寺跡資料館の活動を充実させていきたいと思っています。

武蔵国分寺跡資料館
イメージキャラクター Ver.21



1日平均入園 (入館) 者数と年度別入園 (入館) 者数 ※平成24年度は11月10日午後2時まで

平安時代のやきもの

其の1

灰釉陶器

武蔵国分寺跡やその周辺地域からは多数の灰釉陶器が出土しています。現代人の目から見れば地味な印象の灰釉陶器ですが、作られた当時とはとても高級なやきものでした。

日本では長い間、やきものは中国で作られたものを最高級品として珍重してきました。武蔵国分寺が建立された奈良時代および続く平安時代に、そのような高級品として輸入されたやきものの中に、中国製の青磁と白磁があります。しかしこれらのやきものは、そう簡単に入手できるものではないため、やがてそれらをまねた国産の陶器が作られるようになります。そうして生まれたのが灰釉陶器であり、もちろん輸入品の中国製よりは一段落ちるものの、国産としては当時の最先端技術で作られた高級ブランド品でした。

このような灰釉陶器は、現在の愛知県豊田市にある猿投山の南西麓地域に広がる丘陵地帯で操業していた、猿投窯で生産されていました。灰釉陶器の最大の特徴はその名前の通り、灰釉という草木灰を主成分とした釉薬を施している点にあります。これは平安時代はじめの9世紀頃に確立した新しい技術でした。それ以前にも、焼成中に降り積もった薪などの灰が高温で溶けてガラス状になった自然釉というものが須恵器の表面に付着している例はありますが、そのような偶然に頼ることなく、あらかじめ人工的に調合した灰釉をやきものの表面に塗ってから焼いたのは、日本では猿投窯が最初です。このように表面に釉薬をかけた陶器を総称して施釉陶器といいます。

日本で最も早く生産された施釉陶器は7世紀後半の緑釉陶器ですが、これは釉薬の主成分が鉛である鉛釉陶器の一種で、1000℃以下で焼かれた軟質の陶器です。鉛釉陶器も無釉である須恵器よりは高度な技術で作られたやきものですが、灰釉陶器の生産にはさらに高度な技術が必要でした。なぜなら鉛釉は760℃ほどでガラス状に溶けるのに比べ、灰釉を均一に溶かすには1200℃以上の高温が必要なためです。それには安定して高温を出せる高機能の窯の造成はもちろん、それだけの高温に長時間焼かれて



灰釉陶器 皿「十万」墨書 [平安時代]
僧寺北方地域 SZ2 地下式横穴墓出土



灰釉陶器 長頸瓶 [平安時代]
僧寺北方地域 SZ2 地下式横穴墓出土

も壊れない、丈夫な素地を作る技術も必要となります。猿投窯では、このような条件に耐えられる灰白色の粘土をさらに精製し、ろくろで成形するという丁寧かつ当時の最先端の製作技法を用いました。こうして作られた、きめ細かく白みがあった陶器は「白瓷」と呼ばれ、灰釉のつやと淡い緑色が映え、黒くて無釉の須恵器よりも高級で、鉛釉陶器よりも丈夫でしかも有毒な鉛を含まない実用品として流通しました。

ちなみに緑釉陶器も平安時代になると猿投窯において、灰釉陶器と同様のより硬質な陶器の素地に緑釉をかけて生産するようになります。『資料館だより第7号』で紹介した「武蔵国分寺跡出土の緑釉花文皿」も、このように猿投窯で焼かれたタイプの緑釉陶器で、こちらは「青瓷」と呼ばれました。

灰釉陶器は猿投窯でしか生産できなかったため、産地から400kmも離れた武蔵国ではさらに貴重品でした。それほど貴重な灰釉陶器を大量に使用していたことから、武蔵国分寺が平安時代においても特別な寺院であり続けたことが分かります。
(学芸員 田中恵美)

多摩郷土誌フェア



第25回多摩郷土誌フェアが開催されます。多摩地区29市町村の郷土・歴史・文化財に関する書籍を展示即売しています。

【開催期間】2013年1月18日(金)～20日(日)
 【時間】10:00～19:00(最終日は17:00まで)
 【主催】東京都市社会教育課長会文化財部会
 【協賛】オリオン書房
 【会場】オリオン書房ノルテ店
 多摩モノレール立川北駅前(パークアベニュー3階)
 【展示書籍の解説会】19日(土)14:00～
 パークアベニュー10階 会議室

【国分寺市の販売書籍】

国分寺市の民俗 一 (600円)	国分寺市史料集 I 村落状況・支配関係 (2,500円)	大昔の国分寺 (500円)
国分寺市の民俗 二 (1,500円)	国分寺市史料集 II 武蔵野新田開発・川崎平右衛門 (2,800円)	アルバム 国分寺 (2,000円)
国分寺市の民俗 三 (2,000円)	国分寺市史料集 III 寺社・信仰・文芸 (2,900円)	国分寺市の文化財 (500円)
国分寺市の民俗 五 (2,000円)	国分寺市史料集 IV 本多離軒関係 (3,000円)	国分寺市の万葉植物 (1,000円)
国分寺市の民俗 六 (2,500円)	国分寺市史料目録 I (1,300円)	国分寺の民俗話 (800円)
国分寺市史 上巻 (5,000円)	国分寺市史料目録 II (1,700円)	国分寺市有形文化財調査報告書 I 神社・寺院 (1,500円)
国分寺市史 中巻 (5,500円)	国分寺市史料目録 III (2,000円)	見学ガイド 武蔵国分寺のはなし (400円)
国分寺市史 下巻 (6,000円)	ふるさと国分寺のあゆみ (1,200円)	

(※書籍は武蔵国分寺跡資料館でも販売しています)

【参加市町村】

八王子市・立川市・武蔵野市・三鷹市・青梅市・府中市
 昭島市・調布市・町田市・小金井市・小平市・日野市
 東村山市・国分寺市・国立市・福生市・狛江市・東大和市
 清瀬市・東久留米市・武蔵村山市・多摩市・羽村市
 あきる野市・西東京市・瑞穂町・日の出町・奥多摩町
 檜原村

【ご案内】

福生市郷土資料室ホームページ
<http://www.museum.fussa.tokyo.jp/>
 (国分寺市ホームページでもご案内しています)
<http://www.city.kokubunji.tokyo.jp/>

NEWS

市ホームページにリンクアイコン

国分寺市のホームページトップ画面に武蔵国分寺跡資料館へのリンクアイコンが設定され、資料館のページにアクセスしやすくなりました。



国分寺市ホームページ
<http://www.city.kokubunji.tokyo.jp/>

施設案内の発行

2012年11月に「おたかの道湧水園周辺施設のご案内」のリーフレットを発行しました。PDF版は武蔵国分寺跡資料館のホームページからダウンロードできます。



文化財防火デーのお知らせ

毎年1月26日は文化財防火デーです。国分寺市では1月23日(水)午前10時から11時に国分寺薬師堂付近で東京消防庁による消防訓練が実施される予定です。(見学は自由です)

臨時休館(休園)のお知らせ

2013年3月22日(金)～3月24日(日)は収蔵庫等の燻蒸作業のため武蔵国分寺跡資料館とおたかの道湧水園は臨時休館(休園)いたします。3月26日(火)から通常開館となります。

国重要文化財の縄文土器が公開されます

昭和24年に国分寺市内の多喜窪遺跡から出土した国指定重要文化財「武蔵多喜窪遺跡第一号住居跡出土品一括」(宗教法人国分寺所蔵)の勝坂式縄文土器の1つが神奈川県立博物館等で展示されます。貴重な資料をこの機会にご覧になってみてはいかがでしょうか。

●平成24年度かながわの遺跡展・巡回展「勝坂縄文展」

【展示場1】神奈川県立歴史博物館

【期間】2012年12月15日(土)～2013年2月7日(木)

【展示場2】相模原市立博物館

【期間】2013年2月16日(土)～2013年3月20日(水)

【お問合せ】アクセスなどの詳しい情報は直接各館へお問合せいただくか、下記ホームページをご参照ください。

<http://ch.kanagawa-museum.jp/kassaka2012.html>

来館者数

2009年10月18日～2012年12月末日

来館者数累計 52,687名

多くのご来館ありがとうございました

月	来館者数	開館日数
10	1,471	26
11	3,139 (902)	26 (3)
12	754	24
計	5,364 (902)	76 (3)

- 来館者数
= おたかの道湧水園の入園者数
- 来館者数()内
= 無料公開日の入館者数
- 開館日数()内
= 無料公開日の日数

【10月～12月の学校見学】

【学年】、【人数】、中=中学生、高=高校生、大=大学生、院=大学院生
 <市内>第三小学校[小3](135)、第五小学校[小3](80)、第七小学校[小3](63)、第二小学校[小3](122)、第二中学校[中1](106)
 <市外>創価大学教育学部[大2・3・院](11)、明治大学文学部[大](19)

史跡武蔵国分寺跡中枢部区画施設
発掘現場見学会を開催します

平成 24 年度は武蔵国分僧寺の主要な建物の周囲を取り囲む堀や、それに伴う溝の調査を行っています。この度、調査で得られた成果を皆様に見ていただけるように発掘現場見学会を開催します。

今回の見学会ではシリーズでご紹介してきた掘立柱堀の柱穴や、全国的にも検出例が少ない築地堀の痕跡などをご覧ください。

また今年度は泉町二丁目の都有地に改築予定の東京都立多摩図書館の建設に先駆けて、東京都埋蔵文化財センターによる遺構確認の発掘調査が行われています。この場所は武蔵国分寺跡の北方に位置し、調査では約 3 万 5 千年前の旧石器時代から現在までに堆積した土の断面が確認されています。見学会では土層断面や調査地周辺から出土した土器や石器をご覧ください。

いずれの見学会もご自由に参加いただけますので、ぜひお越しください。

- 【日 時】平成 25 年 2 月 16 日 (土)
11:00 ~ 15:00 ※説明は随時行います。
- 【受付開始】10:30
- 【費用】無料
- 【参加方法】各会場に直接集 ※事前の申込みは不要です。



中枢部区画施設北西隅 堀遺構検出状況(西から)

【会 場】

- ①史跡武蔵国分寺跡 (JR 西国分寺駅より徒歩約 15 分)
- ②武蔵国分寺跡北方地区 (JR 西国分寺駅より徒歩約 7 分)
※場所は下記地図をご参照ください。

【そ の 他】

荒天中止。駐車場はありません。車でのご来場はご遠慮ください。それぞれ見学会会場が離れていますので、履き慣れた歩きやすい靴でご参加ください。

【お問合せ】

- ①史跡武蔵国分寺跡
→国分寺市教育委員会ふるさと文化財課 (042-300-0073)
- ②武蔵国分寺跡北方地区
→東京都埋蔵文化財センター国分寺泉町分室 (070-5560-3249)

武蔵国分寺跡資料館ご利用案内



■交通のご案内

【電車】JR国分寺駅下車/徒歩約20分 JR西国分寺駅下車/徒歩約15分

【バス】国分寺市循環バス「ぶんバス」日吉町ルート「泉町一丁目」下車/徒歩約8分
国分寺駅南口より「京王バス」系統番号(寺83)・(寺85)乗車「泉町一丁目」下車/徒歩約8分

■開館時間

午前9時～午後5時 (入館は午後4時45分まで)

■休館日

毎週月曜日(祝日・振替休日の場合はその翌日)
年末年始(12月29日から1月3日まで)
※展示替えなどで臨時休館することがあります。

■入園料

資料館に入館するには「おたかの道湧水園」への入園料が必要になります。(入園券は史跡の駅で販売)
一般……………100円(年間パスポート1,000円)
中学生以下……………無料

【入園料の減免規則があります】

- 学校の教育活動で生徒(中学生を除く)、学生及び引率の教職員が入園するとき[事前(5日前まで)に減免申請書の提出が必要です。]
 - 身体障害者及びその介護者が入園するとき[発券窓口の史跡の駅で身体障害者手帳等の提示が必要です。]
 - その他教育長が特別の理由があると認めるとき[事前(5日前まで)に減免申請書の提出が必要です。]
- ※減免申請書は、国分寺市のホームページからダウンロードできます。



モバイルホームページQRコード